

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事務室、ホールにも掲示している。毎朝ミーティング時、職員間での読み合わせも行っている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝、ミーティング時、職員間での読み合わせをし理念を再確認し、業務に就いている。</p>	<p>理念の意味を深く掘り下げて考える勉強会も今後検討(理念の共有)</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホールや玄関に理念を掲示し、入居時に家族に説明している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>開設3年経過。少しずつホームを理解して頂けるよう取り組んでいる。地域広報にホームを紹介して頂いたりするが、まだ交流機会は少ない。</p>	<p>少しずつ交流機会増えてきているので、地域の輪が広がっていくよう、活動に貢献していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価・外部評価についての勉強会を実施。理解している。</p>	<p>前年の自己評価、及び外部評価の結果をもとに改善すべき点について話し合い、改善できるよう取り組んでいる。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年度は2ヶ月に1回、第二金曜日会議実施。活動内容等を報告している。(昨年3回・今年4回)</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所連絡協議会への参加、定期的にホームの情報提供提出。事故発生時、第一報報告し現場の実情を伝えている。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者、一部の職員は研修会に参加している。ホーム全体での取り組みは実施していない。</p>	<p>制度への理解は今後更に必要と思われるので、興味を示して学べるような勉強会の実施検討する。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての勉強会を行い、理解している。言動に配慮し虐待のないケアを目指している。</p>	<p>今後も定期的に勉強会する機会を持つ。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時契約の際説明し、同意を得ている。又、解約前にも家族に状態報告し理解頂いている。</p>	<p>今後いろいろな要望が出てくること予測される。事業所で出来る事、出来ないこと、出来そうなこと、柔軟に対応できるように検討していきたい。</p>
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>認知症の程度環境にもよるが、利用者本人の意見表面化されること少ない。</p>	<p>家族などから意見聞くことある。その都度話し合いの場を持ち結果報告している。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に一度各家族へ状態報告を兼ねた手紙を送付している。家族面会時状態報告や出納帳を確認サインして頂いている。急な場合電話連絡し、状態報告行っている。</p>	
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時の契約書にも苦情窓口担当者記載、相談あった場合文章化し全職員に情報共有できるよう対策している。</p>	<p>運営会議時にも、報告している</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>トップダウンあるもののボトムアップは少なく感じる。</p>	<p>定期的に意見を出せる時間設定していくよう検討。</p>
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者や家族の要望を聞き、事業所で対応可能なものは職員対応、難しいものは家族等に協力を依頼し対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職すること決まった時点であるべく対応を継続できるよう、ひきつぎおこなっている。利用者が落ち着かなくなる場合ある為、何気なく伝えている。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修参加は、希望者を募って行っていた。段階的な研修を受ける体制づくり出来ていない。</p>		<p>入社後の新人研修から段階に応じた長期的、育成の計画検討中。</p>
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム間、同業者との交流はほとんどない。</p>		<p>青森市内のグループホーム間では交流あるようなので参考にし、受け入れ側の考えも考慮して検討していきたい。</p>
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的にホームに訪れ、現場職員の話を知っている。又、忘年会には参加して頂き、経営者と話できる場面がある。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>権限の委譲(エンパワメント)し職員は自主的に取り組み、フォローする体制を作りつつある。</p>		<p>毎年目標を持って働いてもらえるよう、年始め自己目標の設定。年末それに対する評価を出来るよう検討している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込みあった場合、ホーム見学に来て頂いたり、こちらから自宅や、利用中のサービス事業所に向き、コミュニケーションを図り、雰囲気にならなで頂けるよう努めている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所定員も決まっている為、すぐ入居できるとは限らないと伝えている。また緊急性など考慮し他サービス利用への相談など対応している。</p>	<p>今までの生活スタイルを本人・家族より聞き今後の生活に極力支障のないよう対応している。</p>
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームでの生活に慣れ、我が家と思えるよう支援する。契約時に入居初めは特に家族の協力お願いしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者のペースにあわせたケアを心掛けています。毎日の生活の中で同じ時間、空間を共有し馴染みの関係を築くようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事、年2回行っている。又、面会に来られた時、本人の話をご家族と共に聞いている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	2ヶ月に一度各家族へ手紙を渡し近況報告。本人と家族との距離を近くしようとしている。		手紙の中には、活動写真を同封している。
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	公園や公共施設などお出掛けする機会を作り馴染みの場所へ行っている。家族の方も盆・正月と家に戻る機会を作ってくれている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士トラブル、早期対応できるよう配慮し、和やかに過ごせるよう努めている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方へも「何かありましたらいつでも連絡・相談下さい」と伝えている。また、利用者より次の生活の場に慣れるまで、電話連絡くれることもあった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	調理や畑の収穫・掃除など職員と一緒にやっている。	センター方式シートを活用し継続的に意向の把握に取り組むよう検討する。
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	入居前より家族などより情報収集し、職員間で情報共有している。	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	利用者一人ひとりの1日の過ごし方パターンを把握し、変化があれば記録に残している。また、日々の暮らしの中での残存能力の把握にも努めている。	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	ユニットノートを通して意見・相談など出せるようにしている。	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	状態の変化に応じて、関係者と話し合い、新たなプランを作成している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を時系列で記載している。又記録用紙に気づき感じたことという欄を設け職員間で情報を共有している。		実践経過は記載されているが、気づきの記載が少ない。気づきや工夫の記載が増え、介護計画に活かせるよう取組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイなど多機能性を活かした支援は現在実施していない。		今後、要望が増えてきたら、検討していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の催しものへの参加・地域小学校との交流、地域消防団への緊急時の協力依頼など行っている。		まだ、利用・協力可能な地域資源あると思うので、構築していきたい。
38	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	定期的な事業所連絡会議など他の事業者との話し合いの場はある。		
39	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの定期的な関わりはある。		権利擁護については今後必要性あると思うので検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、家族・本人の意向聴き希望するかかりつけ医を利用している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医と相談し、必要に応じ認知症に詳しい医師を紹介して頂いている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所に看護師いるので身体的に気になる所は相談しながら健康管理に努めている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は情報提供している。早期退院が見込まれる場合は、家族・医師・ソーシャルワーカー等に入院中の経過、今後のこと情報提供して頂いている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現段階では、終末期における対応行っていない。		運営推進会議で一度、議題にしたが検討中。利用者本人、家族、事業所、職員、医療関係者などと共に今後も検討していきたい。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現段階では、終末期における対応行っていない。		利用者本人を取り巻く環境の整備が不十分である。看護職を中心にひとつずつ検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	考えられる周辺症状を想定し、家族・ケア関係者には情報交換を行っている。		センター方式シートを継続的に活用検討。
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については入社時に説明している。対応については利用者本人の内的世界を理解しようと努めている。		研修・勉強会を通し、職員一人ひとり、自らを振り返る機会を作って行きたい。
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が決めるのではなく、利用者本人の意志を尊重している。		理念を実践できるよう取り組んで行きたい。
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を優先し一人ひとりのペースで1日を過ごせるよう、職員が利用者のペースに合わせているよう努めている。		職員は定期的に自分を見直す時間を作って行きたい。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は本人が選んで好きな物を着ている。理容・美容に関しては本人の意志を尊重し、希望者は望む店へ行けるよう考慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に食事準備をしたり、後片付けを行っている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事の時はお酒、希望者、少量飲んだりしている。他は希望に沿うように支援している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべく一人で排泄できる工夫。環境を整える。ポータブルトイレ設置など対応している。		排泄チェック表、利用し習慣を把握する。
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴日設定しているがそれ以外にも本人の希望に合わせて入浴できるようにしている。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活習慣を尊重しつつ、安眠できるよう環境整備をしている。また、毎日の睡眠状態を把握し、必要時はかかりつけ医に相談している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握した上で、個々に快になる役割を持たせ日々を過ごしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金額を管理できる方は持って頂いている。外出先での支払い時、支払い能力あるかたは、職員見守りにて支払いされている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩・畑収穫と希望時職員と一緒に出かけている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1、2回行事での外出、地域でのイベント、日帰り温泉、桜まつりなど季節を感じられるよう外出機会はある。又年2回、家族参加の行事企画している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたたり、手紙を受け取ったりしている。		手紙が来た方には、職員代筆したりして手紙を出せるように支援している。
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも電話や面会ができるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をし、理解している。拘束のないケアを目指している。		今後も定期的に身体拘束について考える機会を持つ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はついていない。玄関はセンサーついており、夜間は鍵をかけているが、日中は開放して見守りしている。		全体で話す機会はなかったので、鍵をかけることの弊害についても具体的に考えていきたい。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを配慮しつつ、日中は職員間で一人ひとり所在確認。夜間は1時間おきに巡回している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人、家族、関係者とどのような危険、可能性があるか話しあったうえで対応している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防止・予防の為、事故報告書の他、事故になりそうなケース(インシデントメモ)の記載。情報の共有できている。		インシデントメモをまとめ、話し合う機会を設ける。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1度、消防署の救急救命講習に参加している。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年に日中想定、夜間想定で最低2回、消防訓練を行っている。		訓練時、消防団・地域住民の協力を得て、実際の災害に対する体制を整える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>面会時等、医療上・日常生活上の起こりうるリスクについて説明、相談し対応方法について話し合っている。又緊急時は電話連絡し伝えている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎朝、検温・血圧測定記録し、変化がある場合は再検している。気になる点はかかりつけ医に相談し指示を受ける。</p>	
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>通院ノート、ケース記録に服薬内容の用紙添付しいつでも確認できるようにしている。内服薬変更時は申し送りし、継続的に経過を残す。気づいた点は医師に相談している。</p>	
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>水分を多く摂るよう配慮。また、日中の活動性を高め便秘予防に努める。一人ひとりの排便状況についても観察、把握している。</p>	
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>本人の能力にあわせ、口腔ケアの声掛け・見守り、ブラッシング確認。入れ歯は週1回・薬物洗浄(ポリドント)も併用している。</p>	
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後食事摂取量の記載し把握している。水分量は、毎食時コップ1杯水提供。他、毎朝牛乳飲用。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事務所に感染症に関するマニュアル掲示している。常に目を通せるようにしている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の布巾・まな板・包丁などは、毎日塩素消毒。また食材についても定期的に冷蔵庫の食材確認(期限切れ)している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花が植えられ明るい雰囲気を作っている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔を保ち、心地よく使用できるよう配慮している。季節に合わせた掲示物や花を生けたり四季を感じられるよう工夫している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・卓球台等を設置。季節の花や鉢植え、金魚を観賞用に飾っている。思い思いの場所でくつろげるよう環境づくりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、今まで使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して暮せるようにしている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>利用者の休憩時間など利用し、換気行うようにしている。乾燥する時期には、加湿器や濡れタオルを利用し湿度調節している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>段差なく、廊下・風呂場・トイレに手すりを設置している。又ベットの高さを調節したり、起き上がりつかまる物必要な方は柵を使用している。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>夜間はトイレを把握できるよう、電気を点けたままにし、また部屋の標識は利用者の目線で確認できるよう、やや低い位置に貼っている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>敷地内には、畑・パ・ベ・キュウハウスがあり、時期になると利用者と一緒に収穫している。散歩の休憩にパ・ベ・キュウハウス使用したりしている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設3年を経過し、まだまだ発展途上で、関係者の皆さんの力・助言でここまでやってこれたと思い非常に感謝しております。職員は入居者が明るく、楽しく、安心して生活できるよう環境・雰囲気作りに一丸となって努めております。 これからも関係者の方の声・意見を参考にホーム作りに努めて行きたいと思っています。